

ソフトテニス競技における地域密着型スポーツクラブの調査報告 (I)

A New Promotion of Soft Tennis in Community-based Sports Club (I)

畠山 孝子

Takako HATAKEYAMA

キーワード：ソフトテニス、北広島町、地域密着型スポーツクラブ、聞き取り調査

I. はじめに

ソフトテニス競技において初の地域密着型スポーツクラブが誕生した。「どんぐり北広島」ソフトテニスクラブである。NTT西日本広島チーム元女子監督を代表として、構成メンバーの多くは元同チームの選手である¹⁾。

NTT西日本広島女子チームは長年ナショナルチームに多くの選手を輩出してきた日本を代表する実業団チームである。輝かしい歴史を築き²⁾、日本の女子ソフトテニス界をけん引してきたチームの元監督と選手による、企業スポーツから地域密着型スポーツクラブへの大きな決断である。

近年、企業スポーツの休廃部が相次ぐ中³⁾、新たな企業のスポーツ参入の動きも見えている。企業のスポーツ支援は様々に変化しつつ展開されているように思われる。企業スポーツの不安定なこの時代において「どんぐり北広島」の試みは、ソフトテニス競技の新たな発展の方向性を示したと言える。

そこで本研究では、ソフトテニス競技の初の事例である地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」に注目し、クラブの拠点である北広島町での調査を行った。今回は、地域密着型クラブ誕生の経緯を中心に報告する。

II. 調査内容

1. 調査方法

北広島町での1回目の調査は2015年11月28日～11月30日の間である。主に一般財団法人どんぐり財団専務理事、並びに地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」代表に話を聞いた。広島町役場を訪問し町長と話

す機会を得ることができた。また、町内を回りスポーツ施設を視察した。2回目の調査では、地域の人々への聞き取り調査を行う予定である。2016年3月には選手の移住が完了したので、チームの競技環境についての調査も併せて実施する予定である。

2. 北広島町の地域特性⁴⁾

北広島町は、広島県の北西部に位置し、県の都市圏地域に接していることから都市部の交流の多い地域である。2005年に芸北町、大朝町、千代田町、豊平町の4町が合併して北広島町が発足した。町としては中国地方一の面積(646.20km²)である。

人口は2015年現在18915人(平成22年19969人)、世帯数は7738世帯(2010年7699世帯)で緩やかな人口減少が続いている。町の人口密度は広島県平均337.4人に対して29.3人である。0～14歳年齢および15～64歳年齢の人口比率は全国平均と比較すると低く、65歳以上の人口比率は増加傾向にある少子・高齢化が進んだ地域である。

3. 一般財団法人どんぐり財団⁵⁾

北広島町の地域振興事業を担うのは一般財団法人「どんぐり財団」である。財団は、写真1、写真2の豊平総合運動公園と千代田運動公園(温水プール含む)を中心拠点に運動公園指定管理事業、総合型地域スポーツクラブ運営・育成支援、スポーツイベント・大会開催・運営受託、スポーツ指導者派遣、健康増進等の事業を行っている。豊平総合運動公園にはどんぐり北広島チームのホームコートがある。



写真1 チーム応援の看板
後ろはとよひらウイング（屋内体育施設）



写真3 地域住民の手で設置された観客席



写真2 豊平総合運動公園内のホームコート



写真4 コートに掲げられた応援幕

4. 地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」誕生の経緯

どんぐり財団理事への聞き取り調査で得られた地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」誕生の経緯は以下の通りである。

2002年北広島町では地域総合型スポーツクラブの立ち上げが始まる。テニスコートを活用した硬式テニスの集客を考えていた時期に、ソフトテニス競技であれば協力できる実業団チームがあるとの助言を受ける。そのチームがNTT西日本広島であった。チームの協力の下、ソフトテニスの教室の開催などテニスコートの活用が始まる。

2003年にNTT西日本広島所有の広島市内にあるテニスコートの売却が決まり、チームはホームグラウンドを失う。旧豊平町はこの機会にテニスコートの提供を申し出る。条件は地域の子どもを対象に月1回程度ソフトテニス教室を開催することであった。北広島町はテニス



写真5 とよひらウイング内に設けられた「どんぐり北広島」応援コーナー

コートそばにクラブハウスを設置しチームを受け入れる。チームにとっても町にとってもタイミングを得た動きであった。

その後、ホームコートとなった豊平運動公園のテニスコートには、地域住民の手による観客席の整備（写真3）や、選手紹介のパネルや応援幕（写真4）が設置された。



写真6 地元営農組織によって提供された「日本一の田んぼ」



写真7 チームと地元の子ども達による田植え

また、とよひらウイング内にはチーム紹介コーナー（写真5）が設けられるなどの地域の支援が進んだ。

当初は地域総合型スポーツクラブが主導で進められていたチームとのつながりも、地域との交流が深められていくなか、地域営農組織による米の提供が行われる。その後この営農組織は地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」の強力な支援組織となっていく。現在も「日本一の田んぼ」と書かれた看板が設置された（写真6）この田んぼの収穫米はチームに提供されている。チームが田植えを行う（写真7）こともある。

この頃、一般財団法人「どんぐり財団」が中心となって北広島町では「芝」の生産を始める。芝は町の保育所の広場や学校のグラウンド、町のサッカーグラウンド等、多くはスポーツ施設に用いられた。芝がツールとなってスポーツに対する地域の理解や関心が高まり、地域とチームとの繋がりもより深まっていったと専務理事は当時を振り返る。調査を行う中で、営農組織の集まりに参加する機会があったが、地域とチームのこれまで築き上げてきた良好な関係が窺えた。この営農組織との関係はこの事例の大きな特色と思われる。2回目の調査では関係者に聞き取りを実施し調査を進めたいと考えている。

2003年以降、チームは地域との絆を育んできた。2016年4月から本格的に北広島町において活動し始めた地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」には、十

数年間築き上げてきた北広島町とチームとの強い絆という基盤があった。

Ⅲ. まとめ

今回、北広島町において地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」に関する調査を実施した。北広島町どんぐり財団専務理事への聞き取りからは、北広島町にとってもチームにとっても、タイミングのよい出会いであったことが窺えた。また、今回の地域密着型ソフトテニスクラブ誕生には、出会いから十数年の時間をかけて育んだ地域との強い絆が礎にあった。

2016年3月には選手の北広島町移住と就職が完了した。チームは地域に生活基盤を置き、地域の支援を今まで以上に強く感じながら競技生活を送ることになる。今後も調査を継続し、地域密着型という新しい道が指し示す、ソフトテニスの発展のさまざまな可能性を明らかにしていきたい。

付 記

本研究は、平成27年度北方圏生涯スポーツ研究センター・センター選定事業として実施された。

文 献

- 1) ベースボールマガジン：シリーズ・日本ソフトテニスの今と将来どうした？ソフトテニスvol 2, REPORT 新しいペアリング！地域スポーツとトップ選手の門出女子社会人の新クラブ「どんぐり北広島」誕生, ソフトテニスマガジン10月号, 54-57, 2015.
- 2) 地域密着型ソフトテニスクラブ「どんぐり北広島」ホームページ：<http://donguri-zaidan.sakura.ne.jp/wp> 2016. 12. 14. 参照.
- 3) (公財) 笹川スポーツ財団編：企業スポーツの現状と展望, p.107, (有) 創文企画, 東京, 2016.
- 4) 北広島町ホームページ：<https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/> 2016. 12. 14. 参照.
- 5) 一般財団法人「どんぐり財団」ホームページ：<http://kh-donguri.or.jp/> 2016. 12. 14. 参照.